

軟弱地盤対策工指針（平成 24 年度版）の訂正

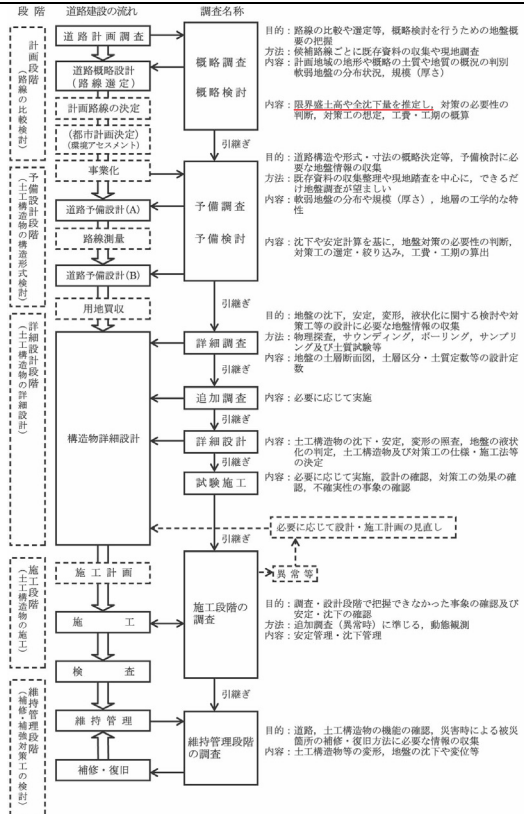
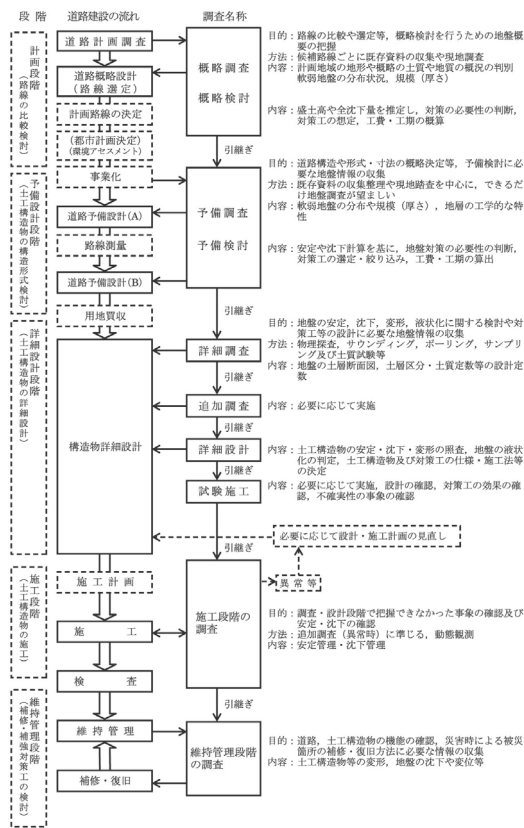
(1) 平成 27 年 10 月（第 5 刷まで修正済）

箇所	修正前	修正後																																																																																																																																																														
目次 ii の 16 行 目	5－5 常時の作用による周辺地盤変形の照査	5－5 常時の作用による周辺地盤の変形の照査																																																																																																																																																														
目次 iv の 7 行目	7－4 品質管理及び出来形管理	7－4 軟弱地盤対策工の品質管理及び出来形管理																																																																																																																																																														
p. 8 の 解 表 1-2 の 表中	<table><tr><th>分 布 域</th><th>地 盤 区 分</th><th>土 質 材 料 区 分</th><th>土 質 区 分</th><th>記 号</th><th colspan="4">土 質^(注1)</th></tr><tr><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>w_n (%)</th><th>e_n</th><th>q_n (kN/m²)</th><th>N 値</th></tr><tr><td rowspan="2">おぼれ谷 埋積地</td><td rowspan="2">泥炭 質 地 盤</td><td rowspan="2">高有機 質土 (Pm)</td><td>泥炭 (Pt)</td><td>繊維質の高 有機質土</td><td>▽▽▽ ▽</td><td>300 以上</td><td>7.5 以上</td><td>40 以下</td></tr><tr><td>黒泥 (Mk)</td><td>分解の進んだ 高有機質土</td><td>≡≡≡ ≡</td><td>300～ 200</td><td>7.5 ～5</td><td>1^(注) 以下</td></tr><tr><td>丘陵や谷地 に挟まれた 細長い谷</td><td rowspan="4">粘性土 地 盤</td><td rowspan="4">細粒土 (Fm)</td><td>有機質 土 (O)</td><td>塑性図A線 の下</td><td> </td><td>200～ 100</td><td>5 ～ 2.5</td><td>100 以下</td></tr><tr><td>三角州低地</td><td>火山灰 質粘性 土 (V)</td><td>塑性図A線 の下</td><td>~~~~~ ~~~~~</td><td>100～ 50</td><td>2.5 ～ 1.25</td><td>4^(注) 以下</td></tr><tr><td>埋立地</td><td>シルト (M)</td><td>塑性図A線 の下、ダイレ イタンシー大</td><td>----- -----</td><td>50</td><td>1.25</td><td>10 ～ 15 以下</td></tr><tr><td>海岸砂州 自然埋込</td><td>粘土 (C)</td><td>塑性図A線 の上、またはその 付近、ダイレ イタンシー小</td><td>----- -----</td><td>50 ～ 30</td><td>1.25 ～ 0.8</td><td>10 ～ 15 以下</td></tr><tr><td></td><td rowspan="2">砂質土 地 盤</td><td rowspan="2">粗粒土 (Cm)</td><td>細粒分 まじり 砂 (SF)</td><td>75 μ m 以下 15～50%</td><td>●●● ●●●</td><td>50 ～ 30</td><td>1.25 ～ 0.8</td><td>10 ～ 15 以下</td></tr><tr><td></td><td>砂 (S)</td><td>75 μ m 以下 15%未満</td><td>●●● ●●●</td><td>30 以下</td><td>0.8 以下</td><td>10 ～ 15 以下</td></tr></table>	分 布 域	地 盤 区 分	土 質 材 料 区 分	土 質 区 分	記 号	土 質 ^(注1)									w_n (%)	e_n	q_n (kN/m ²)	N 値	おぼれ谷 埋積地	泥炭 質 地 盤	高有機 質土 (Pm)	泥炭 (Pt)	繊維質の高 有機質土	▽▽▽ ▽	300 以上	7.5 以上	40 以下	黒泥 (Mk)	分解の進んだ 高有機質土	≡≡≡ ≡	300～ 200	7.5 ～5	1 ^(注) 以下	丘陵や谷地 に挟まれた 細長い谷	粘性土 地 盤	細粒土 (Fm)	有機質 土 (O)	塑性図A線 の下	 	200～ 100	5 ～ 2.5	100 以下	三角州低地	火山灰 質粘性 土 (V)	塑性図A線 の下	~~~~~ ~~~~~	100～ 50	2.5 ～ 1.25	4 ^(注) 以下	埋立地	シルト (M)	塑性図A線 の下、ダイレ イタンシー大	----- -----	50	1.25	10 ～ 15 以下	海岸砂州 自然埋込	粘土 (C)	塑性図A線 の上、またはその 付近、ダイレ イタンシー小	----- -----	50 ～ 30	1.25 ～ 0.8	10 ～ 15 以下		砂質土 地 盤	粗粒土 (Cm)	細粒分 まじり 砂 (SF)	75 μ m 以下 15～50%	●●● ●●●	50 ～ 30	1.25 ～ 0.8	10 ～ 15 以下		砂 (S)	75 μ m 以下 15%未満	●●● ●●●	30 以下	0.8 以下	10 ～ 15 以下	<table><tr><th>分 布 域</th><th>地 盤 区 分</th><th>土 質 材 料 区 分</th><th>土 質 区 分</th><th>記 号</th><th colspan="4">土 質^(注1)</th></tr><tr><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>w_n (%)</th><th>e_n</th><th>q_n (kN/m²)</th><th>N 値</th></tr><tr><td rowspan="2">おぼれ谷 埋積地</td><td rowspan="2">泥炭 質 地 盤</td><td rowspan="2">高有機 質土 (Pm)</td><td>泥炭 (Pt)</td><td>繊維質の高 有機質土</td><td>▽▽▽ ▽</td><td>300 以上</td><td>7.5 以上</td><td>40 以下</td></tr><tr><td>黒泥 (Mk)</td><td>分解の進んだ 高有機質土</td><td>≡≡≡ ≡</td><td>300～ 200</td><td>7.5 ～5</td><td>1^(注) 以下</td></tr><tr><td>丘陵や谷地 に挟まれた 細長い谷</td><td rowspan="4">粘性土 地 盤</td><td rowspan="4">細粒土 (Fm)</td><td>有機質 土 (O)</td><td>塑性図A線 の下</td><td> </td><td>200～ 100</td><td>5 ～ 2.5</td><td>100 以下</td></tr><tr><td>三角州低地</td><td>火山灰 質粘性 土 (V)</td><td>塑性図A線 の下</td><td>~~~~~ ~~~~~</td><td>100～ 50</td><td>2.5 ～ 1.25</td><td>4^(注) 以下</td></tr><tr><td>埋立地</td><td>シルト (M)</td><td>塑性図A線 の下、ダイレ イタンシー大</td><td>----- -----</td><td>50</td><td>1.25</td><td>10 ～ 15 以下</td></tr><tr><td>海岸砂州 自然埋込</td><td>粘土 (C)</td><td>塑性図A線 の上、またはその 付近、ダイレ イタンシー小</td><td>----- -----</td><td>50 ～ 30</td><td>1.25 ～ 0.8</td><td>10 ～ 15 以下</td></tr><tr><td></td><td rowspan="2">砂質土 地 盤</td><td rowspan="2">粗粒土 (Cm)</td><td>細粒分 まじり 砂 (SF)</td><td>75 μ m 以下 15～50%</td><td>●●● ●●●</td><td>50 ～ 30</td><td>1.25 ～ 0.8</td><td>10 ～ 15 以下</td></tr><tr><td></td><td>砂 (S)</td><td>75 μ m 以下 15%未満</td><td>●●● ●●●</td><td>30 以下</td><td>0.8 以下</td><td>10 ～ 15 以下</td></tr></table>	分 布 域	地 盤 区 分	土 質 材 料 区 分	土 質 区 分	記 号	土 質 ^(注1)									w_n (%)	e_n	q_n (kN/m ²)	N 値	おぼれ谷 埋積地	泥炭 質 地 盤	高有機 質土 (Pm)	泥炭 (Pt)	繊維質の高 有機質土	▽▽▽ ▽	300 以上	7.5 以上	40 以下	黒泥 (Mk)	分解の進んだ 高有機質土	≡≡≡ ≡	300～ 200	7.5 ～5	1 ^(注) 以下	丘陵や谷地 に挟まれた 細長い谷	粘性土 地 盤	細粒土 (Fm)	有機質 土 (O)	塑性図A線 の下	 	200～ 100	5 ～ 2.5	100 以下	三角州低地	火山灰 質粘性 土 (V)	塑性図A線 の下	~~~~~ ~~~~~	100～ 50	2.5 ～ 1.25	4 ^(注) 以下	埋立地	シルト (M)	塑性図A線 の下、ダイレ イタンシー大	----- -----	50	1.25	10 ～ 15 以下	海岸砂州 自然埋込	粘土 (C)	塑性図A線 の上、またはその 付近、ダイレ イタンシー小	----- -----	50 ～ 30	1.25 ～ 0.8	10 ～ 15 以下		砂質土 地 盤	粗粒土 (Cm)	細粒分 まじり 砂 (SF)	75 μ m 以下 15～50%	●●● ●●●	50 ～ 30	1.25 ～ 0.8	10 ～ 15 以下		砂 (S)	75 μ m 以下 15%未満	●●● ●●●	30 以下	0.8 以下	10 ～ 15 以下
分 布 域	地 盤 区 分	土 質 材 料 区 分	土 質 区 分	記 号	土 質 ^(注1)																																																																																																																																																											
					w_n (%)	e_n	q_n (kN/m ²)	N 値																																																																																																																																																								
おぼれ谷 埋積地	泥炭 質 地 盤	高有機 質土 (Pm)	泥炭 (Pt)	繊維質の高 有機質土	▽▽▽ ▽	300 以上	7.5 以上	40 以下																																																																																																																																																								
			黒泥 (Mk)	分解の進んだ 高有機質土	≡≡≡ ≡	300～ 200	7.5 ～5	1 ^(注) 以下																																																																																																																																																								
丘陵や谷地 に挟まれた 細長い谷	粘性土 地 盤	細粒土 (Fm)	有機質 土 (O)	塑性図A線 の下	 	200～ 100	5 ～ 2.5	100 以下																																																																																																																																																								
三角州低地			火山灰 質粘性 土 (V)	塑性図A線 の下	~~~~~ ~~~~~	100～ 50	2.5 ～ 1.25	4 ^(注) 以下																																																																																																																																																								
埋立地			シルト (M)	塑性図A線 の下、ダイレ イタンシー大	----- -----	50	1.25	10 ～ 15 以下																																																																																																																																																								
海岸砂州 自然埋込			粘土 (C)	塑性図A線 の上、またはその 付近、ダイレ イタンシー小	----- -----	50 ～ 30	1.25 ～ 0.8	10 ～ 15 以下																																																																																																																																																								
	砂質土 地 盤	粗粒土 (Cm)	細粒分 まじり 砂 (SF)	75 μ m 以下 15～50%	●●● ●●●	50 ～ 30	1.25 ～ 0.8	10 ～ 15 以下																																																																																																																																																								
			砂 (S)	75 μ m 以下 15%未満	●●● ●●●	30 以下	0.8 以下	10 ～ 15 以下																																																																																																																																																								
分 布 域	地 盤 区 分	土 質 材 料 区 分	土 質 区 分	記 号	土 質 ^(注1)																																																																																																																																																											
					w_n (%)	e_n	q_n (kN/m ²)	N 値																																																																																																																																																								
おぼれ谷 埋積地	泥炭 質 地 盤	高有機 質土 (Pm)	泥炭 (Pt)	繊維質の高 有機質土	▽▽▽ ▽	300 以上	7.5 以上	40 以下																																																																																																																																																								
			黒泥 (Mk)	分解の進んだ 高有機質土	≡≡≡ ≡	300～ 200	7.5 ～5	1 ^(注) 以下																																																																																																																																																								
丘陵や谷地 に挟まれた 細長い谷	粘性土 地 盤	細粒土 (Fm)	有機質 土 (O)	塑性図A線 の下	 	200～ 100	5 ～ 2.5	100 以下																																																																																																																																																								
三角州低地			火山灰 質粘性 土 (V)	塑性図A線 の下	~~~~~ ~~~~~	100～ 50	2.5 ～ 1.25	4 ^(注) 以下																																																																																																																																																								
埋立地			シルト (M)	塑性図A線 の下、ダイレ イタンシー大	----- -----	50	1.25	10 ～ 15 以下																																																																																																																																																								
海岸砂州 自然埋込			粘土 (C)	塑性図A線 の上、またはその 付近、ダイレ イタンシー小	----- -----	50 ～ 30	1.25 ～ 0.8	10 ～ 15 以下																																																																																																																																																								
	砂質土 地 盤	粗粒土 (Cm)	細粒分 まじり 砂 (SF)	75 μ m 以下 15～50%	●●● ●●●	50 ～ 30	1.25 ～ 0.8	10 ～ 15 以下																																																																																																																																																								
			砂 (S)	75 μ m 以下 15%未満	●●● ●●●	30 以下	0.8 以下	10 ～ 15 以下																																																																																																																																																								

泥炭及び黒泥の記号を変更

p. 27

の解
図3-1
の図
中



盛土高や全沈下量・・・⇒限界盛土高や全沈下量・・・
に変更

p. 46

の 6
行 目
(解
式
3-3)

$$=1/2 (qt-\sigma vo) /Nkt$$

$$=2 (qt-\sigma vo) /Nkt$$

p. 46

の 13
行 目

σ_{vo} : 電気式コーン貫入試験の鉛直全応力 (kN/m²)

σ_{vo} : 鉛直全応力 (kN/m²)

p. 47

の解
図3-4
の図
中

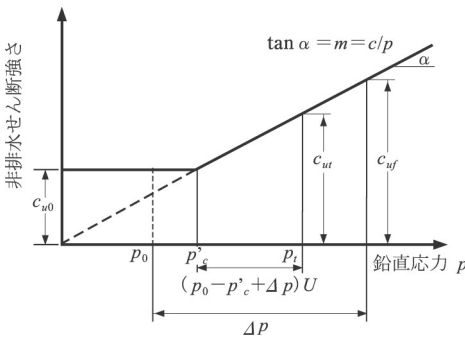
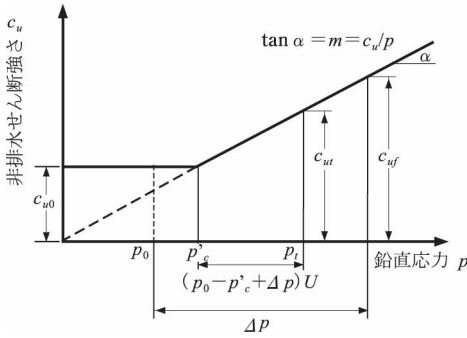
縦軸 0.5, 1.0kN/m²

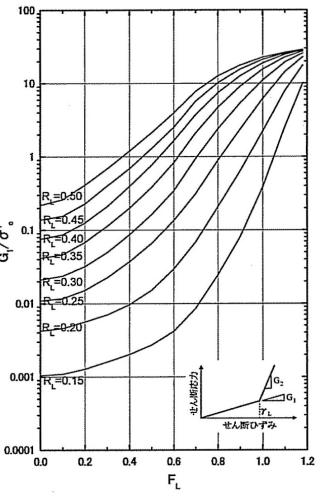
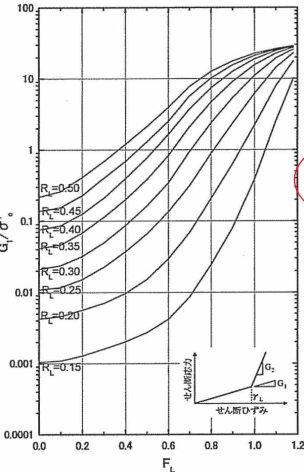
縦軸 50, 100kN/m²

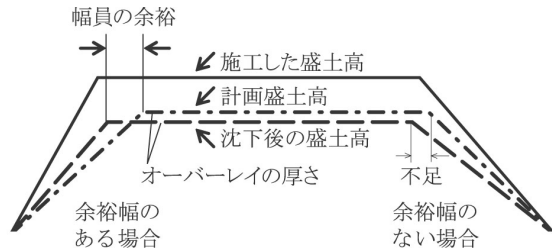
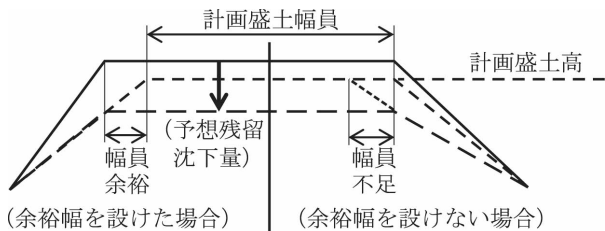
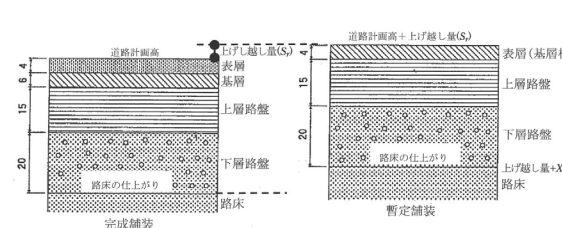
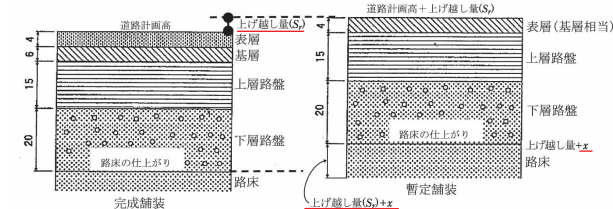
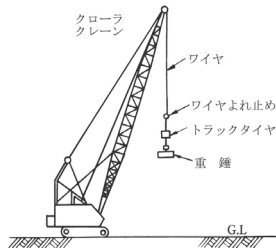
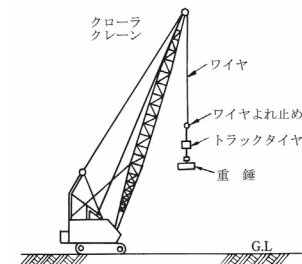
p. 54 の 解 表 3-3 の 表 中	<table><tr><th></th><th>土質</th><th>緩いもの</th><th>密なもの</th></tr><tr><td rowspan="3">自然地盤</td><td>砂及び砂礫</td><td>18</td><td>20</td></tr><tr><td>砂質土</td><td>17</td><td>19</td></tr><tr><td>粘性土</td><td>14</td><td>18</td></tr><tr><td rowspan="3">盛 土</td><td>砂及び砂礫</td><td colspan="2">20</td></tr><tr><td>砂質土</td><td colspan="2">19</td></tr><tr><td>粘性土 (ただし $w_L<50\%$)</td><td colspan="2">18</td></tr></table>		土質	緩いもの	密なもの	自然地盤	砂及び砂礫	18	20	砂質土	17	19	粘性土	14	18	盛 土	砂及び砂礫	20		砂質土	19		粘性土 (ただし $w_L<50\%$)	18		<table><tr><th></th><th>土質</th><th>緩いもの</th><th>密なもの</th></tr><tr><td rowspan="3">自然地盤</td><td>砂及び砂礫</td><td>18</td><td>20</td></tr><tr><td>砂質土</td><td>17</td><td>19</td></tr><tr><td>粘性土</td><td>14</td><td>18</td></tr><tr><td rowspan="4">盛 土</td><td>砂及び砂礫</td><td colspan="2">20</td></tr><tr><td>砂質土</td><td colspan="2">19</td></tr><tr><td>粘性土 (ただし $w_L<50\%$)</td><td colspan="2">18</td></tr><tr><td>火山灰質粘性土</td><td colspan="2">15</td></tr></table> 火山灰質粘性土を追加		土質	緩いもの	密なもの	自然地盤	砂及び砂礫	18	20	砂質土	17	19	粘性土	14	18	盛 土	砂及び砂礫	20		砂質土	19		粘性土 (ただし $w_L<50\%$)	18		火山灰質粘性土	15	
	土質	緩いもの	密なもの																																																		
自然地盤	砂及び砂礫	18	20																																																		
	砂質土	17	19																																																		
	粘性土	14	18																																																		
盛 土	砂及び砂礫	20																																																			
	砂質土	19																																																			
	粘性土 (ただし $w_L<50\%$)	18																																																			
	土質	緩いもの	密なもの																																																		
自然地盤	砂及び砂礫	18	20																																																		
	砂質土	17	19																																																		
	粘性土	14	18																																																		
盛 土	砂及び砂礫	20																																																			
	砂質土	19																																																			
	粘性土 (ただし $w_L<50\%$)	18																																																			
	火山灰質粘性土	15																																																			
p. 62 の 4 行目	把握する必要がある。	把握することが望ましい。																																																			
p. 65 の 5～ 6 行目	一般に、解表3-8 に示した基準化されているサンプラーでは細粒分の少ない砂質土のサンプリングは困難である。	一般に、解表 3-8 に示したサンプラーでは細粒分の少ない砂質土の動的特性試験の試料を得るのは困難である。																																																			
p. 67 の 下 から 7 行目	一組の強度定数 (c_{uu} , ϕ_{uu})	一組の強度定数 (c_u , ϕ_u)																																																			
p. 72 の 下 から 11 行 目	三軸圧縮試験結果 (c_{uu} , ϕ_{uu})	三軸圧縮試験結果 (c_u , ϕ_u)																																																			
p. 73 の 解 図 3-11 の 図 中		・ Φ_u の単位を追加 ・ 深さ 6～20m 程度のあたりに液性限界、塑性限界、自然含水比のサンプリング例を追加 (図中に赤丸)																																																			

p. 79 の 6 行目	また、安定計算に用いる軟弱層の非排水せん断強さとしては、一般に一軸圧縮強さの1/2 をとる。一軸圧縮強さは深くなる・・・	安定計算に用いる軟弱層の非排水せん断強さとしては、一般に一軸圧縮強さの 1/2 をとる。また、圧密による強度増加を考慮する場合には、④強度増加率mを用いて求めた軟弱層の非排水せん断により安定計算を行う。一軸圧縮強さは深くなる・・・
p. 88 の 2 行目	試験では・・・	試験 施工 は・・・
p. 92 の 下 から1 行目	「道路土工—カルバート工指針」よるものとする。	「道路土工—カルバート工指針」によるものとする。
p. 93 の 7 行目	水圧（降雨等による地下水位の上昇の影響、河川やため池からの水圧や浸透水の作用）等、	水圧や 浮力の作用 等、
P94 の 8 行目	道路土工各指針	「道路土工—盛土工指針」、「道路土工—擁壁工指針」、「道路土工—カルバート工指針」
p. 99 の 6 行目	施工、施工管理、維持管理	施工・施工管理、維持管理
p. 105 の 1 行目	示した対策工法と対策原理や力学特性が	示した 土工構造物 や対策工法と 力学特性や対策原理が
p. 105 の 9 行目	道路土工各指針	「道路土工—盛土工指針」、「道路土工—擁壁工指針」、 「道路土工—カルバート工指針」
p. 107 の 1 行目	盛土の性質を明らかにできない	盛土材を特定 できない
p. 108 の 4 行目	(1) 水圧は、地盤条件や水位の・・・	降雨の作用として、水圧及び浮力を考慮するものとする。 (1) 水圧は、地盤条件や水位の・・・
p. 111 の 2 行目	に当たっては、想定する作用に対しての軟弱地盤対策工を施さずに想定する作用に対しての軟弱地盤上の土工構造物の・・・	に当たっては、 まず軟弱地盤対策工を施さない場合について、 軟弱地盤上の土工構造物の・・・

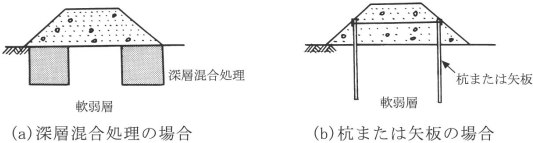
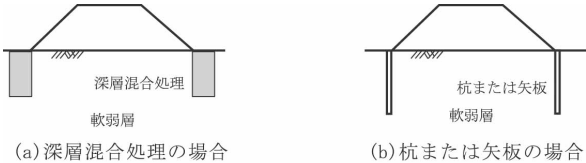
p. 111 の 下 から 6 行目	土工構造物の安定性を照査する。	土工構造物の安定性を照査する。 その際、本章では土工構造物として主に道路盛土を対象とし、照査法としては慣用的な設計手法による方法を示した。
p. 112 の 8 行目	・・・慎重に設計施工を行う。	・・・慎重に 設計・施工 を行う。 なお、本章では土工構造物として主に道路盛土を対象とし、慣用的な設計手法による照査法を示した。
p. 121 の 14 行目	荷重（地下水位以下は水中重量）を盛土荷重として加えることが望ましい。	荷重（地下水位以下は水中重量）を 考慮した必要盛土厚さを基に盛土荷重を設定する ことが望ましい。
p. 128 の 3 行目	T_V ：時間係数で、鉛直有効応力の増分 Δp の瞬間 載荷により圧密層で一定値として発生する	T_V ：時間係数で、鉛直有効応力の増分 Δp の瞬間載荷によ り 圧密層に 発生する
p. 135 の 参 図 5-4 の 図 中		
		(使用例： ピート層)を追加
p. 141 の 参 図 5-8 の 図 中		
		無処理を 対策有 に変更
p. 146 の 13 行目	「５－４（１）すべりに対する安定の照査」で示したような	「５－４（１） 土工構造物の安定の照査 」で示した

p. 146 の下 から6 行目	必要盛土厚さを・・・	沈下量を考慮した必要盛土厚さを・・・																																								
p. 148 の解 図 5-13 の図 中		 ・ 非排水せん断強さ⇒非排水せん断強さc_u ・ $\tan \alpha = m = c/p \Rightarrow \tan \alpha = m = c_u/p$																																								
p. 155 の1 行目	側方変位量の検討方法 ³⁾	側方変位量の検討方法の例 ³⁾																																								
p. 155 の下 から9 行目	腐植土層が存在することを示す。	腐植土層内の値であることを示す。																																								
p. 157 の参 照 図 5-11 の図 中	<table><tr><th>地盤タイプ</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th></tr><tr><td>影響範囲: L_1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>鉛直変位: δ_v</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>水平変位: δ_H</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	地盤タイプ	1	2	3	4	影響範囲: L_1					鉛直変位: δ_v					水平変位: δ_H					<table><tr><th>地盤タイプ</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th></tr><tr><td>影響範囲: L_1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>鉛直変位: δ_v</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>水平変位: δ_H</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・ 地盤タイプ2について $N(P) \cdot H/Bt \Rightarrow N \cdot H/Bt$	地盤タイプ	1	2	3	4	影響範囲: L_1					鉛直変位: δ_v					水平変位: δ_H				
地盤タイプ	1	2	3	4																																						
影響範囲: L_1																																										
鉛直変位: δ_v																																										
水平変位: δ_H																																										
地盤タイプ	1	2	3	4																																						
影響範囲: L_1																																										
鉛直変位: δ_v																																										
水平変位: δ_H																																										

p. 165 の 下 か ら 5, 1 行 目	沖積層の砂質土層	沖積層の土層
p. 174 参 図 5-13 の 図 中	 参図 5-13 液状化が生じる土層のせん断剛性の低減の例¹³⁾	 参図 5-13 液状化が生じる土層のせん断剛性の低減の例¹⁴⁾ また図の横に凡例を追加 F_L : 液状化に対する抵抗率 R_L : 繰り返し三軸強度比 G_0/σ'_v : せん断剛性低下率
p. 175 の 8～ 9 行目	・・・である。例えば^{15), 16)}	・・・である。例として^{16), 17)}
p. 176 の 参 考 文 献 4)	BASIC SOILS Engineering, Soil Mechanics and Foundation Engineering, Vol.3, No.2, p.97.	4) Hough B.K. : Basic Soils Engineering, p.109, The Ronald Press,1957.
p. 176 の 参 考 文 献 12) ～16)	12) 東日本高速道路(株), 中日本高速道路(株), 西日本高速道路(株): 設計要領第二集 橋梁建設編, 第4章, pp.4-39～40, 2010. 13) 国土交通省: ・・・ 14) 安田進、・・・ 15) Oka, F. ・・・ 16) Iai, S. ・・・	12) 土木学会地盤工学委員会 土構造物の性能評価に関する研究小委員会: 土構造物の性能評価に関する活動成果報告書, pp. C-42～C-46, 2007. 13) 東日本高速道路(株), 中日本高速道路(株), 西日本高速道路(株): 設計要領第二集 橋梁建設編, 第4章, pp.4-39～40, 2010. 14) 国土交通省: ・・・ 15) 安田進、・・・

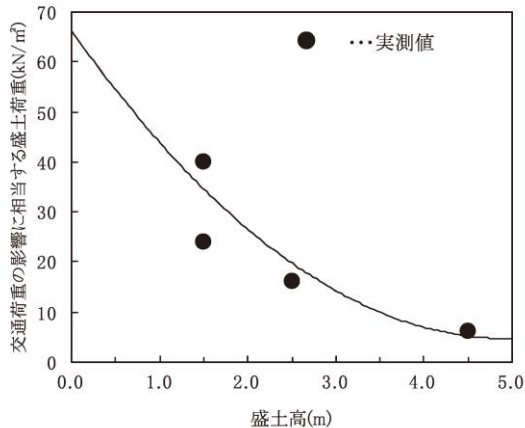
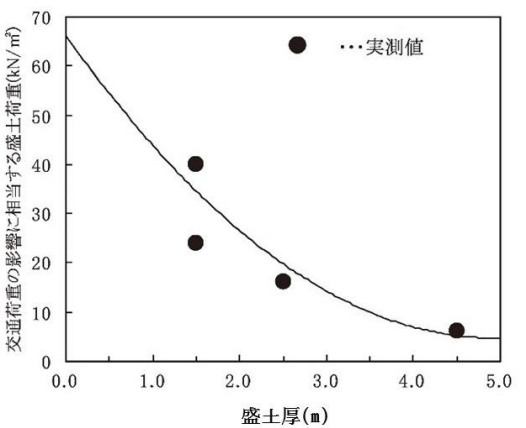
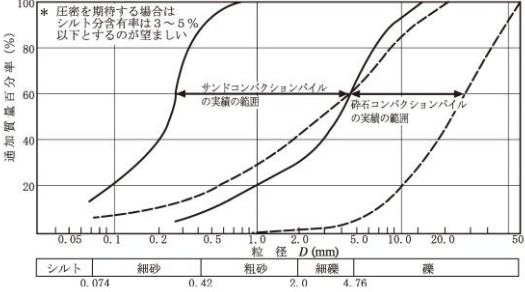
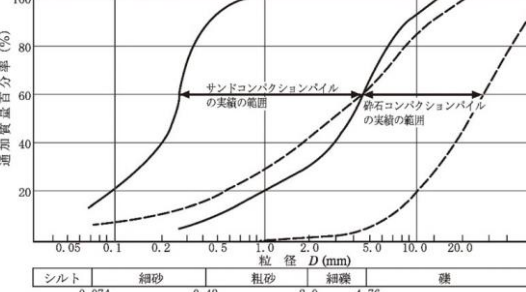
		16) Oka, F. . . . 17) Iai, S. . . .												
p. 178 の 3 行目	必要がある。	必要がある。 なお、本章では、土工構造物として主に道路盛土を対象とした対策工法について述べる。												
p. 220 の 解 図 6-27	解図 6-27 土かぶり厚と沈下比	解図 6-27 土かぶり厚と沈下比 ³⁾												
p. 225 の 下 から 3 行目	近傍部と一般土工部とは . . .	近傍部と一般盛土部とは . . .												
p. 225 の 解 図 6-39 の 図 中		 ・ 予想残留沈下量を図中に追加												
p. 227 の 解 図 6-43 の 図 中		 ・ 暫定舗装図内に上げ越し量 (S) + x を図中に追加												
p. 264 の 14 行目	解図 6-59 を用いて間隔の設定を行うことができる。	解図 6-59 を用いて間隔の設定を行うこともできる。												
p. 291 の 解 図 6-82 の 図 中	 <table><tr><th>名称</th><th>仕様</th></tr><tr><td>重錘</td><td>10～25トン</td></tr><tr><td>クローラークレーン</td><td>100～130トン吊り</td></tr></table>	名称	仕様	重錘	10～25トン	クローラークレーン	100～130トン吊り	 <table><tr><th>名称</th><th>仕様</th></tr><tr><td>重錘</td><td>10～25トン</td></tr><tr><td>クローラークレーン</td><td>100～250トン吊り</td></tr></table> クローラークレーンの仕様を 100～250 トン吊りに変更	名称	仕様	重錘	10～25トン	クローラークレーン	100～250トン吊り
名称	仕様													
重錘	10～25トン													
クローラークレーン	100～130トン吊り													
名称	仕様													
重錘	10～25トン													
クローラークレーン	100～250トン吊り													

p. 317 の下 から7 行目	(政令 358 号第 1 条・・・)	(昭和 63 年政令 356 号第 1 条・・・)
p. 321 の解 図 6-96 の図 中	①削孔 所定の深度まで 削孔する。 ②シール注入 シールグラウトを 孔内へ充填する。 ③外管挿入 ④ケーシングパイプ引き抜き ⑤一次注入 外管の中へパッカ付きの内管 を挿入し、一次注入 (C B 液) を行い地盤の均一化を図る。 ⑥二次注入 一次注入完了後、溶液型注入 材にて浸透改良を行う。 ※一次注入の前に水で クラッキングを行う場合がある。	①削孔 所定の深度まで 削孔し、ケーシング を挿入する。 ②シール注入 シールグラウトを 孔内へ充填する。 ③外管挿入 ④ケーシングパイプ引き抜き ⑤一次注入 外管の中へパッカ付きの内管 を挿入し、一次注入 (C B 液) を行い地盤の均一化を図る。 ⑥二次注入 一次注入完了後、溶液型注入 材にて浸透改良を行う。 ※一次注入の前に水で クラッキングを行う場合がある。 ※図をクリックすると拡大します ・ケーシングを指す箇所を修正 ・外管の中が分かるように詳細に修正
p. 351 の 11 行目	原地盤の液状化強度比・・・	原地盤の動的せん断強度比・・・
p. 357 の(解 6-17)	$q_d = \alpha c N_c + T \left(\frac{2 \sin \theta}{B} + \frac{N_q}{r^2} \right) + \gamma_t D_f N_q$	$q_d = \alpha c N_c + T \left(\frac{2 \sin \theta}{B} + \frac{N_q}{r} \right) + \gamma_t D_f N_q$ $r^2 \rightarrow r$ に修正
p. 360 の参 考文 献 3)	3) 東日本高速道路 (株), 中日本高速道路 (株), 西日本高速道路 (株): 設計要領第一集 土工編, 第5 章, p. 5-78, p. 5-98, 2009.	3) 東日本高速道路 (株), 中日本高速道路 (株), 西日本高速道路 (株): 設計要領第一集 土工編 p. 5-78, 第二集カルバート編 p. 45, 2012.
p. 360 の参 考文 献 6)	6) 東日本高速道路 (株), 中日本高速道路 (株), 西日本高速道路 (株): 軟弱地盤対策工の設計・施工に関する検討報告書, p. 4-30	6) 東日本高速道路 (株), 中日本高速道路 (株), 西日本高速道路 (株): 軟弱地盤対策工の設計・施工に関する検討報告書, p. 4-30, 2010.
p. 367 の下 から3	7-4 品質管理及び出来形管理	7-4 軟弱地盤対策工の品質管理及び出来形管理

行目		
p. 369 の 3 行目	…図 7-4 に示す。	…図 7-4 に示す。なお同図で、対策工を施工する時点においても、地盤の水平変位などの動態観測を行う場合も多い。
p. 375 の 2 行目	定数 α 、 β を求める。	定数 α 、 β を求め、式（解 7-1）により時間 t における沈下量 St を求める。
p. 387 の 解 図 7-15 の 図 中	 (a) 深層混合処理の場合 (b) 杭または矢板の場合	 (a) 深層混合処理の場合 (b) 杭または矢板の場合 深層混合処理、杭または矢板を法尻部で打設するよう修正
p. 395 の 8 行目	なお、震災時の復旧については「道路震災対策・・・」	なお、震災時の復旧については「7-5-3(5) 復旧対策のために必要な調査」、「7-5-3(6) 復旧対策工」、「道路震災対策・・・」

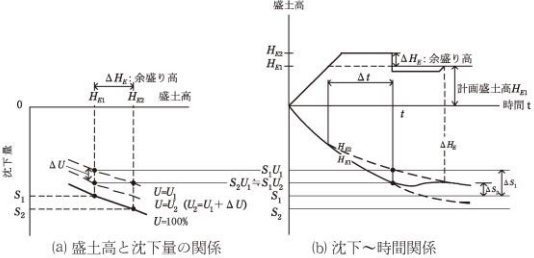
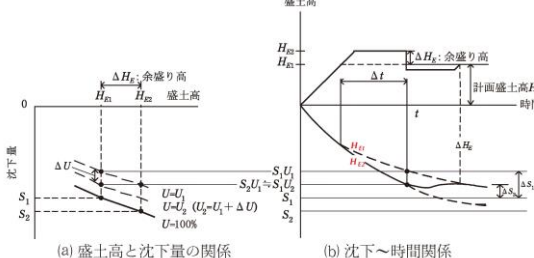
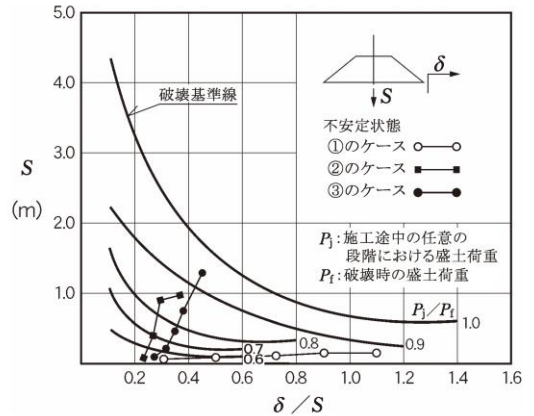
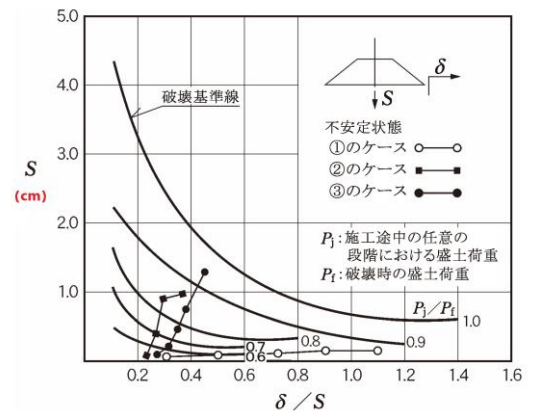
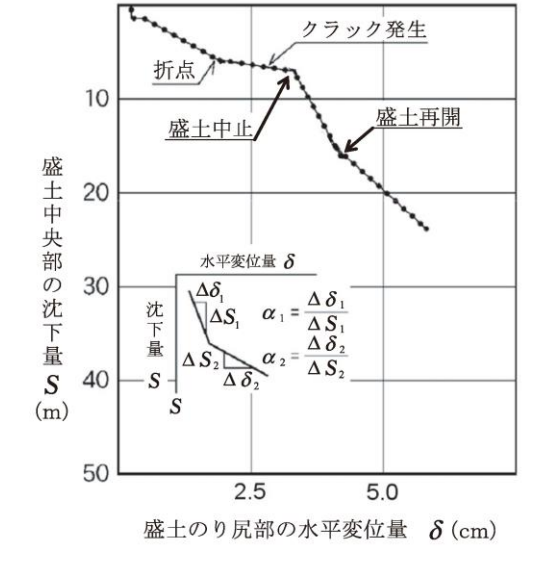
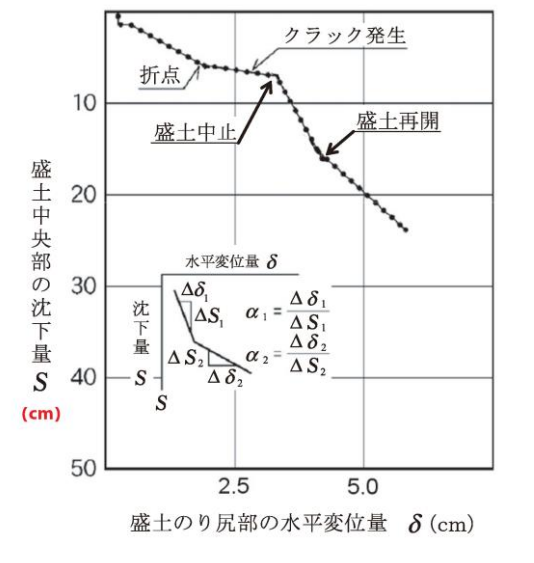
軟弱地盤対策工指針（平成 24 年度版）の訂正

(2) 平成 28 年 6 月（第 6 刷で修正済）

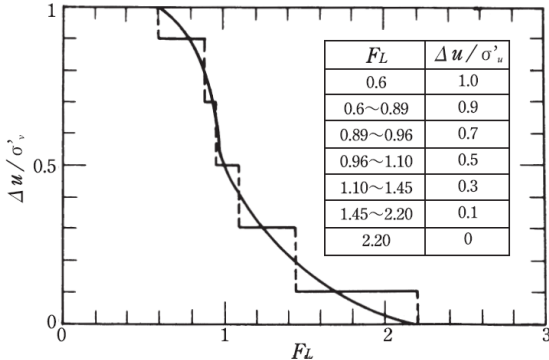
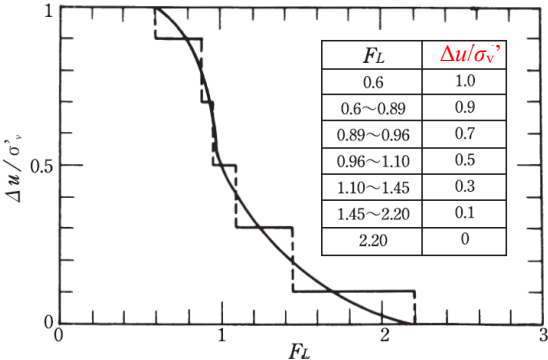
箇所	修正前	修正後
p. 143 1 行目	低盛土道路の動態観測から得られた沈下曲線をもとに盛土高に応じた	低盛土道路の動態観測から得られた沈下曲線をもとに 盛土厚 に応じた
p. 143 の 解 図 5-12	 交通荷重の影響に相当する盛土荷重(kN/m²) 盛土高(m) X 軸タイトル 盛土高 (m)	 交通荷重の影響に相当する盛土荷重(kN/m²) 盛土厚(m) X 軸タイトル 盛土厚 (m)
p. 281 10 行 目	透水性が大きい粒度分布の良い材料が望ましい（有効径 $D_{10} > 0.1\text{mm}$ 、均等係数 $UC > 5$ ）。	透水性が大きい粒度分布の良い材料が望ましい（ 有効径 $D_{10} > 0.1\text{mm}$、均等係数 $UC > 5$。 ）。
p. 281 の 解 図 6-76	 * 圧密を期待する場合はシルト含有率は 3～5 % 以下とするのが望ましい 通過質量百分率 (%) 粒 径 D (mm) シルト 細砂 粗砂 細礫 礫 0.074 0.42 2.0 4.76 サンドコンパクションパイルの実績の範囲 砕石コンパクションパイルの実績の範囲	 通過質量百分率 (%) 粒 径 D (mm) シルト 細砂 粗砂 細礫 礫 0.074 0.42 2.0 4.76 サンドコンパクションパイルの実績の範囲 砕石コンパクションパイルの実績の範囲 図中の注釈を削除

軟弱地盤対策工指針（平成 24 年度版）の訂正

(3) 平成30年 4 月（第 7 刷で修正済）

箇所	修正前	修正後
p. 246 の解 図 6-52	 (a) 盛土高と沈下量の関係 (b) 沈下～時間関係 ※図をクリックすると拡大します	 (a) 盛土高と沈下量の関係 (b) 沈下～時間関係 図中の記号 H_{E1} と H_{E2} を入替 ※図をクリックすると拡大します
p. 299 8 行目	室内配合試験の強度と現地での強度との相違を考慮する¹⁸⁾。	室内配合試験の強度と現地での強度との相違を考慮する¹⁹⁾。
p. 381 の解 図 7-11	 S: 盛土中央沈下量 (cm), δ: のり尻水平変位量 (cm)	 S: 盛土中央沈下量 (cm), δ: のり尻水平変位量 (cm) 縦軸の単位変更 (m) → (cm)
p. 383 の解 図 7-13	 盛土のり尻部の水平変位量 δ (cm)	 盛土のり尻部の水平変位量 δ (cm) 縦軸の単位変更 (m) → (cm)

(4) 令和 6 年 5 月（第 10 刷で修正済）

箇所	修正前	修正後																																
p. 173 参 図 5-12 の 図 中 凡 例	 <table><tr><th>F_L</th><th>$\Delta u / \sigma_v'$</th></tr><tr><td>0.6</td><td>1.0</td></tr><tr><td>0.6~0.89</td><td>0.9</td></tr><tr><td>0.89~0.96</td><td>0.7</td></tr><tr><td>0.96~1.10</td><td>0.5</td></tr><tr><td>1.10~1.45</td><td>0.3</td></tr><tr><td>1.45~2.20</td><td>0.1</td></tr><tr><td>2.20</td><td>0</td></tr></table> 参図 5-12 液状化に対する抵抗率 F_L と過剰間隙水圧比 $\Delta u / \sigma_v'$ の関係	F_L	$\Delta u / \sigma_v'$	0.6	1.0	0.6~0.89	0.9	0.89~0.96	0.7	0.96~1.10	0.5	1.10~1.45	0.3	1.45~2.20	0.1	2.20	0	 <table><tr><th>F_L</th><th>$\Delta u / \sigma_v'$</th></tr><tr><td>0.6</td><td>1.0</td></tr><tr><td>0.6~0.89</td><td>0.9</td></tr><tr><td>0.89~0.96</td><td>0.7</td></tr><tr><td>0.96~1.10</td><td>0.5</td></tr><tr><td>1.10~1.45</td><td>0.3</td></tr><tr><td>1.45~2.20</td><td>0.1</td></tr><tr><td>2.20</td><td>0</td></tr></table> 参図 5-12 液状化に対する抵抗率 F_L と過剰間隙水圧比 $\Delta u / \sigma_v'$ の関係	F_L	$\Delta u / \sigma_v'$	0.6	1.0	0.6~0.89	0.9	0.89~0.96	0.7	0.96~1.10	0.5	1.10~1.45	0.3	1.45~2.20	0.1	2.20	0
F_L	$\Delta u / \sigma_v'$																																	
0.6	1.0																																	
0.6~0.89	0.9																																	
0.89~0.96	0.7																																	
0.96~1.10	0.5																																	
1.10~1.45	0.3																																	
1.45~2.20	0.1																																	
2.20	0																																	
F_L	$\Delta u / \sigma_v'$																																	
0.6	1.0																																	
0.6~0.89	0.9																																	
0.89~0.96	0.7																																	
0.96~1.10	0.5																																	
1.10~1.45	0.3																																	
1.45~2.20	0.1																																	
2.20	0																																	